

一 正月の行事食について一

青葉学園短大 眞理浪子 ○吉中哲子 岩倉さち子 石綿きみ子

目的 第1報と同様の目的で、行事食の中で最も全国的に広く行われていると思われる正月の行事食について調査した。

方法 調査対象および時期は第1報と同様である。調査内容は昭和54年正月の実態とし調査項目は次の6項目とした。1もち、2雑煮、3雑煮以外の正月料理、4正月料理の費用、5正月料理の盛付方法、6祝酒。以上の6項目を年令別、同居老人の有無、家族数、地方別、都市郡別、未婚既婚別等により分析した。

結果 正月時に必ずもちを食べる風習は全国平均で99%以上残っていて、年令別でわずかながら差がみられる。もちの入手方法では店についてもらうが最も多く47%、次いで自宅で作くものは29%だが、自宅で作くものは年令別、都市郡別、家族数等で差がみられ、真空包装のもちを購入しているものは16%であった。もちの形状は地方により異なるが年令別や同居老人の有無によっても差がある事が分った。雑煮は地方によって汁の種類や中の具が異なるほかに年令による差異が見られる。

雑煮以外の正月料理で喫食率80%以上を示す品目として、かまぼこ、黒豆、なます、数の子、煮物があげられる。これらの正月料理の喫食率は種々の要素によって差があり、殊に年令による差のみられる品目が多い。正月料理の調理を手づくりと既製品購入に分けて調査した結果、年令別、同居老人の有無、都市郡別、家族数などによって差のある品目がある事が分った。正月料理の盛付と祝酒についても年令、同居老人の有無、地方別、都市郡別によって差異がみられる。